

城址公園内で発掘された煉瓦（レンガ）建物跡について

富山市埋蔵文化財センター

1. 調査の概要

調査原因：富山城址公園整備工事（公園緑地課発注）に先立つ工事立会調査

調査主体：富山市教育委員会埋蔵文化財センター

調査期間：平成 22 年 10 月 5 日～平成 22 年 12 月上旬（予定）

2. 発掘された建物跡について

①旧県会議事堂建物

城址公園内の芝生広場南側で、煉瓦積み建物の土台部分が発掘された。

この位置には、明治 42 年に建築され、大正天皇が皇太子時代、富山巡行時に宿泊所として使用後、県会議事堂として利用された洋風建築物（木造スレート葺き、土台は煉瓦造）が建っていた。昭和 10 年に現県庁が建つと、議事堂の機能も移転し、その後「大正会館」（会議場など）、同 15 年からは「県立図書館」として広く市民に利用されたが、同 20 年の空襲で木造部分が焼失した。

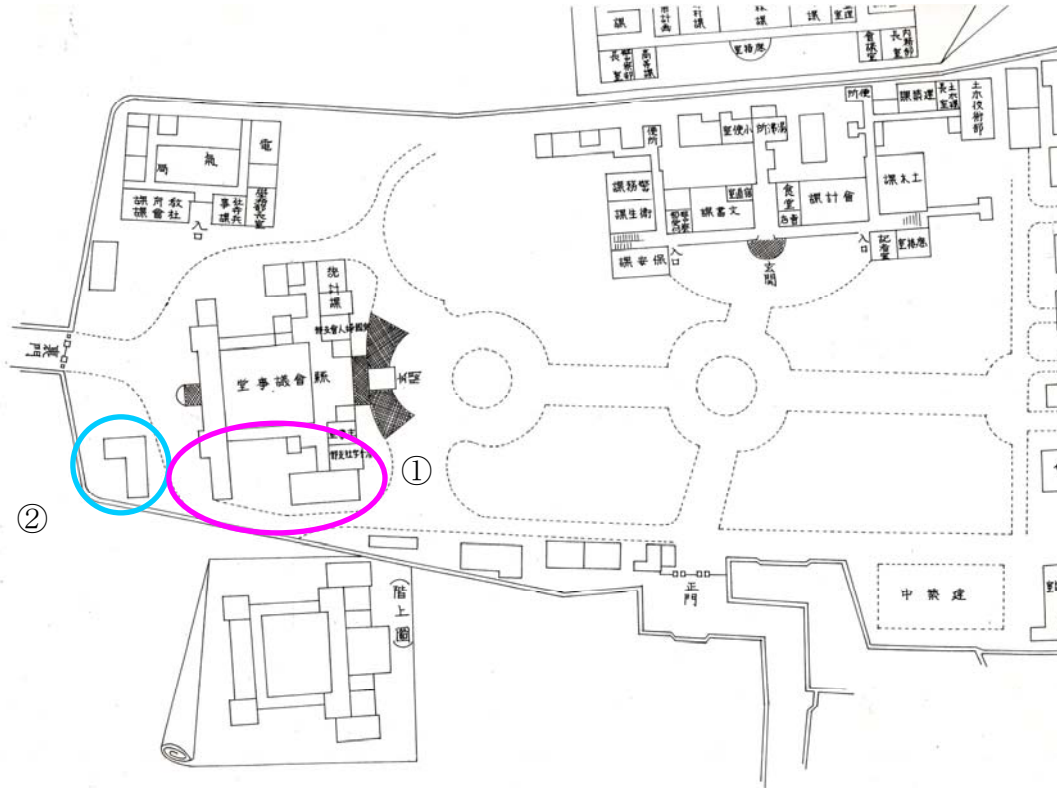
当時の建物配置図から、今回見つかった土台部分は、この建物の南側の一部であることが判明した。

②議事堂付属建物

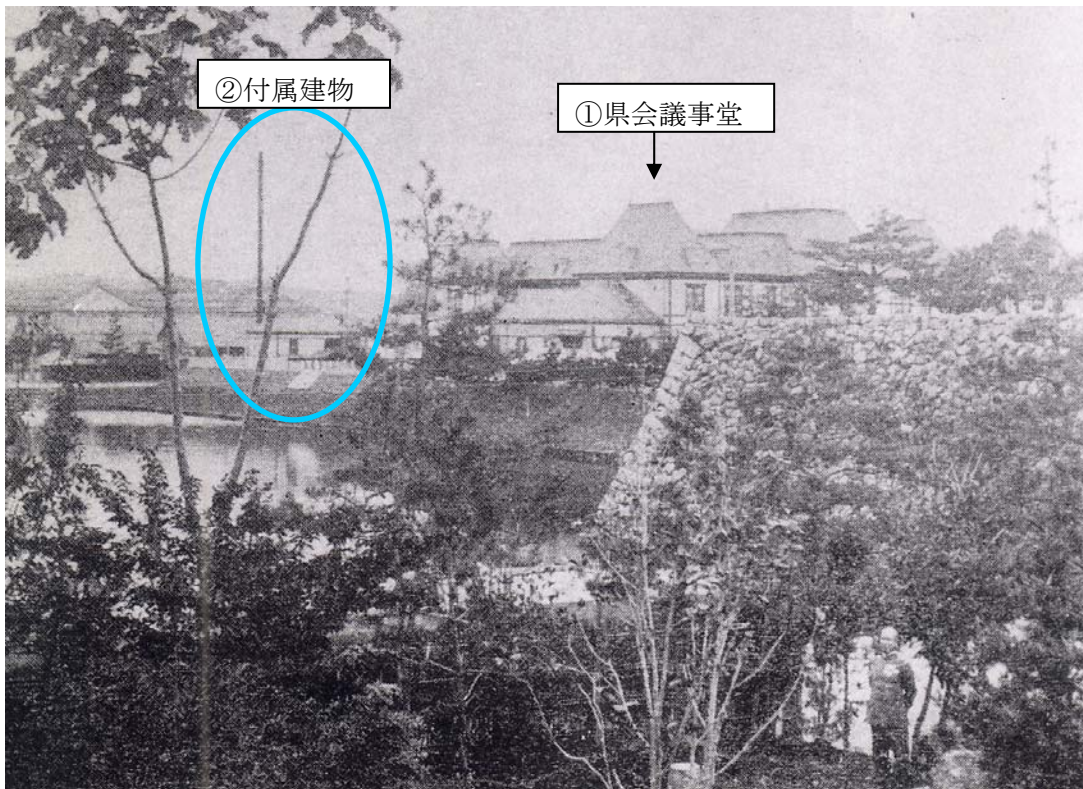
議事堂建物の南西に別棟の煉瓦建物の一部が発掘された。この建物に煙突の土台が付属していたため、燃焼施設であることが判明した。議事堂建物を暖房するためのボイラー施設ではないかと推測される。

3. 建物が検出された意義

- ・明治、大正期の古写真でしかその姿を見ることができなかったが、建物の一部が実際に発掘されたことで、その位置を特定することができ、土台部分の構造を解明することができた。
- ・富山市域では、明治期の煉瓦造りの歴史的公共建築物は、残っておらず、富山の近代化の歴史や都市景観の変遷を知る上で貴重な資料である。
- ・空襲前までは、県立図書館として利用された地域の人々の記憶に残る建物跡が見つかった。実体感のある地域の歴史を後世に語り継ぐ好材料となる。

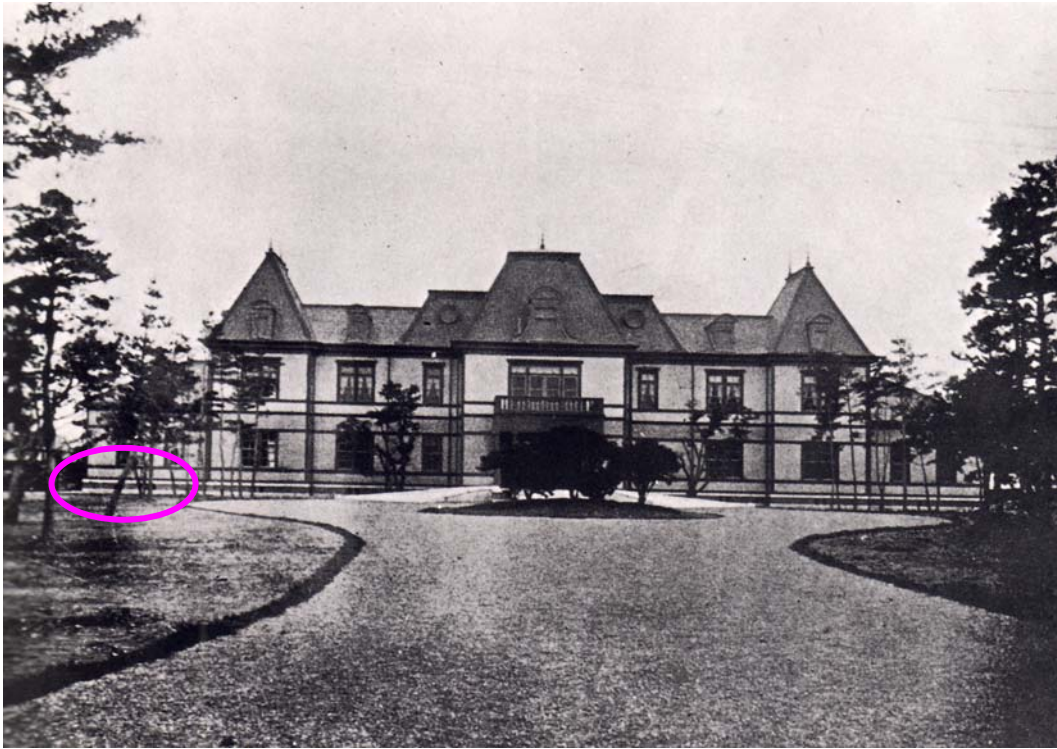


大正 15 年頃「富山県庁構内一覧」『富山県史VII 近代下 付録』から



明治時代の古写真

(1993『目で見る富山市の百年』郷土出版社から)



① 県会議事堂正面（東から） （八尾正治編 1978『ふるさとの思い出写真集富山』国書刊行会から）



① 写真（丸印）に写った土台部分（議事堂建物南東角）



①旧県会議事堂(西棟)建物土台



②付属建物（工事のため、埋め戻し済）